

森林やまがた

No.193

2021. 4

フォレスト
サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

令和3年度 山形県森林・林業・木材産業施策の

展開方向……………2

令和2年度山形県再造林加速化研修会について…4

松くい虫被害と防除対策について……………5

やまがた絆の森づくりの協定を更新しました…6

普及情報

森林研究研修センターが実施する

令和3年度の研修計画……………7

みどりのページ

「緑のふるさとづくりセミナー」を

オンラインで開催……………8

「緑の募金」春の募金期間が始まりました…9

県民の森・源流の森が4月29日オープン…9

公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構

設立と役割について……………10

森の人紹介

小松孝さん・高橋築さん 中條雅浩さん……………11

フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から

「林業を受け継ぐ若者の育成を担って」……………12

～村山総合支庁の事務室木質化の取組み～

「木のあるオフィス」の推進……………13

「きのこ王国もがみ」フェアについて……………14

林道の維持管理軽減に向けて

～グランドセルによる路盤補強の取組み～…14

置賜森林ノミクス推進フォーラム2021の開催…15

木炭普及への取組み(置賜地区)……………15

自伐林家による木質バイオマス活用の展開……………16

やまがたの木造施設

しあわせウッド賞 山形寿地所株式会社社屋…17

人事異動……………18

(表紙写真：霞城公園のサクラ)

業・木材産業施策の展開方向

- ・航空レーザ計測等の森林情報を活用した森林管理 **新規** (境界の明確化・路網計画等の効率的かつ省力的な作成を推進) (やまがた幸せ農林水産デジタル化事業費)

(2) 主伐・再造林推進プロジェクト

- ・再造林支援制度の推進 (再造林経費への支援)
- ・再造林の加速化 (再造林加速化対策会議の開催、森林経営計画の変更経費や地上レーザ機器のレンタル経費への支援) 【森林環境譲与税】
- ・再造林の加速化 (低密度植栽技術の確立に向けた実証) 【やまがた緑環境税】
- ・林木育種の推進 (優良品種・病虫害抵抗性品種等の生産、コンテナ苗の実証試験)

(3) 多面的機能の高い森林管理・保全プロジェクト

- ・森林経営管理制度の推進体制の強化 **拡充** (山形県森林管理推進協議会の開催、県、市町村及び林業関係団体等との情報共有、地域の林業経営者の体制強化や森林所有者等への普及啓発、「やまがた森林と緑の推進機構」による市町村の実践的な業務への技術的なサポート) 【森林環境譲与税】
- ・森林の保全管理 (保安林の指定、林地開発許可制度の適正運用)
- ・森林病虫害の防除 (特別抜倒駆除、薬剤散布、樹幹注入等の実施)
- ・環境保全を重視した森林整備の推進 (管理放棄され荒廃のおそれのある人工林や里山林の整備) 【やまがた緑環境税】

(4) 災害等に強い治山対策推進プロジェクト

- ・治山事業 (山地治山総合対策12箇所、水源地域等保安林整備3箇所、農山漁村地域整備交付金10箇所)
- ・県単独治山自然災害防止事業 (山地災害危険地区の災害未然防止対策、山地災害地現地調査・応急工事)

3 「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」

(1) 県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上プロジェクト

- ・県産製材品の高度化促進 (JAS認定経費の支援)
- ・県産木材の普及促進 **拡充** (広葉樹等を天然乾燥するストックヤード整備等、構造用JAS製品の常時ストック体制の構築支援) 【森林環境譲与税】
- ・木材産業等競争力の強化対策 (木材の加工・流通に必要な施設の整備への助成)

4 「県産木材の利用促進・特用林産の振興」

(1) 県産木材利用促進プロジェクト

- ・やまがたの木づかい運動の推進 (しあわせウッド運動の一環として、認可保育所に県産木材を利用した積木の配布)
- ・県産木材の普及促進 (県産材を使用した非住宅民間施設への補助、公共建築物等の中・大規模木造設計に必要な技術を習得するための研修会の開催支援) **拡充** 【森林環境譲与税】
- ・林業、木材産業と工業、建築、大学・研究機関、金融機関等による「山形県林工連携コンソーシアム」の運営と新たな製品・技術の開発 **新規** 【森林環境譲与税】
- ・やまがたの木利用拡大プロジェクト (やまがた木づかい運動の普及啓発活動等)
- ・森林資源の循環利用の促進 (間伐等に伴い発生する低質材をラミナ用材やペレット等のバイオマス燃料として利用するための搬出補助、ナラ林の健全化のための路網整備・害虫駆除・被害木のチップ等活用への補助) 【やまがた緑環境税】

(2) 特用林産物振興プロジェクト

- ・やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクトの推進 (ブランド化戦略に基づく生産戦略や流通・コミュニケーション戦略、観光・交流戦略の各施策の実施) **拡充**

5 「その他」

- ・試験研究費 (森林環境の維持・管理技術の確立、きのこ・山菜等の優良品種開発、森林病虫害の防除技術開発等)
- ・森林組合振興総合資金 (森林の保続培養及び生産力の増進を図るとともに森林組合等の健全な育成発展に資することを目的とした事業資金の貸付)
- ・木材産業等高度化推進対策事業資金 (木材生産の合理化の促進並びに林業経営の安定化を図ることを目的に、造林・育林、素材生産、製材、木材卸売等の事業を行う事業者等への融資)
- ・林業改善資金 (林業者及び木材産業事業者が先進的な取り組みを行うために必要とする事業資金の無利子貸付)

《基本的な考え方》

本県の森林・林業等の現状や国の林業の成長産業化等の取組みを踏まえ、平成28年12月に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林ノミクス推進条例）に即し、第4次農林水産業元気創造戦略の目標達成を目指して、「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン～第3次山形県森林整備長期計画～」(R3.3策定)に沿って、各施策を着実に実施する。

《施策の展開方向と重点的な取組み》

やまがた森林ノミクスを加速化させるため、

- 1 「人材育成・地域づくり」、2 「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」、
- 3 「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」、4 「県産木材の利用促進・特用林産の振興」

の4つを柱として、各種施策を体系的に展開していく。

1 「人材育成・地域づくり」

(1) 林業を支える人材育成と事業体強化プロジェクト

- ・山形県青年林業士の認定
- ・人材育成の推進（意欲的林業者活動支援、林業技術向上研修、地域林政アドバイザー育成支援）【森林環境譲与税】
- ・緑の青年就業準備給付金の県立農林大学校林業経営学科の学生への給付
- ・林業労働力環境改善強化対策 **拡充**（労確法による改善計画の実行支援と施業合理化の推進、労働災害防止対策、就業希望者に対する林業情報の提供や資格取得等への支援）
- ・林業普及指導（試験研究成果の速やかな現地への普及・指導）

(2) 魅力ある地域づくり促進と参加意識醸成プロジェクト

- ・やまがた森林ノミクスの推進（セミナーの開催、林業遺産認定に向けた調査の支援、PRグッズの作成、やまがた森林ノミクス県民会議の運営）
- ・森林経営管理制度を円滑に運用するための、市町村業務へのサポート体制の整備【森林環境譲与税】
- ・日用品木製化シフト事業（身近な日用品について木製品への転換を図り、木の良さを感じてもらうことで、県産木材利用拡大を加速）【森林環境譲与税】
- ・県内4つの県民の森（県民の森・眺海の森・源流の森・遊学の森）の指定管理者による管理運営〔各総合支庁〕
- ・市町村や地域住民、NPO等の独自性と創意工夫を凝らして取り組む森づくり活動等を支援〔みどり自然課〕【やまがた緑環境税】

2 「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」

(1) 県産木材の安定供給推進プロジェクト

- ・森林クラウドシステムに登録する森林簿等の情報更新、システムの利活用の促進 **拡充**【森林環境譲与税】
- ・高性能林業機械のトライアル（レンタル経費）支援等【森林環境譲与税】
- ・スマート林業の推進（航空レーザ測量を用いた高精度な森林情報や地形情報を取得し、森林クラウドシステム情報の精度を向上）
- ・スマート林業の推進（ドローン等による測量や検査等の効率化を検証し、造林及び搬出間伐計画箇所の設計や施工管理におけるリモートセンシング技術の活用を林業事業体に普及）
- ・意欲と能力のある林業経営体による路網整備と搬出間伐を推進し、川下との連携を強化
- ・林業成長産業化地域創出モデル事業（ICT活用による森林情報基盤整備等、先進的モデル事業の取組み等の支援）
- ・山形県県営林経営計画に基づく県営林の経営・維持管理、SGEC森林管理認証書に基づく森林モニタリング調査の実施
- ・民有林林道の整備（木材生産基盤となる林道開設8路線、林道改良2路線、点検診断等）
- ・森林施業の支援（森林施業を実施する森林組合や林業事業体等の支援）
- ・森林整備地域活動の支援（森林施業の集約化、森林経営計画の作成、森林境界の確認等）

令和2年度山形県再造林加速化研修会について

◆はじめに

県では、県産木材の需要増加が見込まれる中、利用期を迎えた人工林の主伐を進めるとともに、森林の公益的機能を維持し、資源の循環利用を確保するため、伐採跡地への確実な再造林を推進しています。

令和元年度の再造林率は前年度の53%から64%に伸びていますが、目標とする再造林率100%に向け、さらに取組みを加速させるためには、伐採事業者と造林事業者の連携・協力



により、伐採前の段階で森林所有者に再造林を働きかける取組みを促進する必要があります。

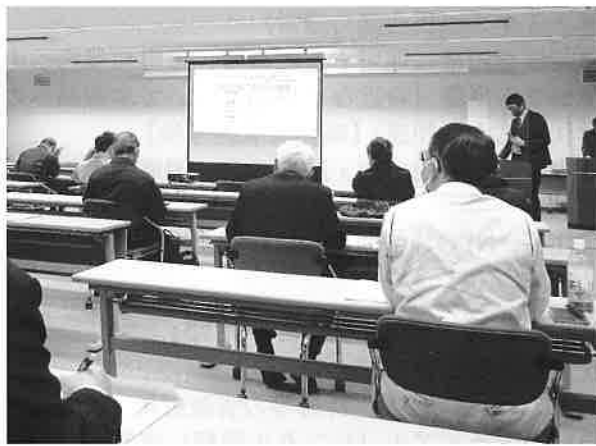
このため、伐採及び造林事業者が情報共有を図るとともに、森林所有者の再造林への意欲向上や主伐・再造林の一体的かつ計画的な実行などに連携して取り組んでいけるよう、令和3年3月5日に山形県再造林推進機構が主催する「令和2年度山形県再造林加速化対策研修会」が開催されました。

◆開催概要

研修会は、山形県再造林推進機構の佐藤会長のあいさつに続き、東北森林管理局、県森林ノミクス推進課、森林研究研修センターの講師による講義、参加者との質疑応答が行われました。

○「東北森林管理局における一貫作業について」では、東北森林管理局森林整備課担当から、林業経営コストの7割を占める初期費用の低減に向け、集材・地拵え一貫作業システムとコンテナ苗植栽の有効性について説明がありました。

○「山形県における皆伐、更新施業の手引きの概要について」では、県森林ノミクス推進課担当から、平成30年度に県が作成した同手引きの概要について説明を行いました。



○「スギの再造林適地の簡易な判定方法」では、山形県森林研究研修センター研究員から、森林簿の地位のデータは概ね現地状況と一致しており、スギ再造林適地の判断基準として参考にすることができると、同一林班内でも斜面の上下位置などでスギの生育状況が異なる場合があり、現地調査も併せて行うことが重要であること。また、1m程度の穴を掘

る土壌調査が有効であるが、作業が困難な場合は、樹高の変化点や広葉樹などの侵入樹木率、根曲がり木率等も判断の参考になるとの報告がありました。

○「山形県における今後の林木育種（コンテナ苗生産、花粉の少ないスギ種子の生産から特定母樹由来の種子生産）について」では、森林研究研修センター研究員から、林業の現場であまり接する機会のない苗木生産や林木育種の実態、将来の展望について説明がありました。

◆おわりに

今回の研修会は、再造林コストの縮減に向け、集材・地拵え一貫作業システムやコンテナ苗植栽など新しい造林技術の普及を行いました。また、「山形県における皆伐、更新施業の手引き」に、今回報告のあった内容などを取り入れ、再造林に向けた技術マニュアルの改訂等も進めていきます。

県では、引き続き、山形県再造林推進機構と連携・協力を図りながら、主伐・再造林の計画的な実施に向けて、伐採及び造林事業の協力体制の強化を図っていきます。

〔県森林ノミクス推進課〕

松くい虫被害と防除対策について

◆松くい虫被害とは？

現在、日本中で特異的なマツの集団枯損が確認されています。マツノザイセンチュウという線虫がマツに侵入することでマツを枯らし、その線虫を運ぶマツノマダラカミキリにより被害がまん延していくもので、これを松くい虫被害といいます。

◆松くい虫被害の経緯と課題

昭和53年度に県内で初めて松くい虫被害が確認されてから、その被害は増加と減少を繰り返しながら推移してきました。

近年の被害状況は、平成15年度に県内の被害量がピークに達し、その後しばらく減少が続いていましたが、平成25年度から増加に転じ、以降は海岸林を有する庄内地方を中心に被害が著しく増加しました。現在は県内民有林の松くい虫被害量のうち庄内地方（特に海岸林）の占める割合が8割以上になり、その被害対策が最重要課題となっています。

◆令和2年度の被害（速報値）

令和2年度の県内民有林における松くい虫の被害量（速報値）は、約1万2千立方メートル（マツの本数

で約2万2千本）でした。前年度比で約2割減の被害量となりましたが、庄内地方の被害量は依然として高い水準で推移しています。

◆松くい虫被害対策

被害が顕著であり特に保全する必要がある庄内地方の海岸林においては、薬剤散布による予防措置と被害木の伐倒・破砕による駆除を効果的に組み合わせ、徹底した対策を行っています。

その他の地域においても、国指定の文化財や保安林、森林公園等の重要な森林に防除を重点化し、被害木の伐倒・くん蒸処理による駆除や薬剤注入による予防措置を図ってまいります。〔県森林ノミクス推進課〕



無人ヘリコプターによる薬剤散布

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部 Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

パスコは森林・林業の課題を 先端ICT技術で解決します！

航空レーザー

地形・樹高・樹冠を3次元計測し
計画立案、森林管理を支援

森林クラウド(森林GIS)

簡単便利なサービス
効率的な情報共有を支援

航空画像AI解析

樹種判別・森林資源量における
現地確認を省力化



株式会社パスコ 山形支店

〒990-0039
山形県山形市香澄町一丁目19番5号
Tel : 023-624-7271 www/pasco.co.jp

やまがた絆の森づくりの協定を刷新しました

◆はじめに

「やまがた絆の森づくり」とは、企業等、森林所有者及び県の3者で協定を結び、環境貢献や社会貢献として実施する企業等による森づくり活動です。同時に、森づくり活動による里山の資源の活用を通して地域交流を促進し、里山地域の活性化を図ることも目的としております。

この度、令和2年度で協定満了を迎えた6企業について、令和3年度以降も森づくり活動を進めていただくことになり、協定を更新しましたので御紹介します。

◆NDソフト・こもれびの郷

企画企業 NDソフトウェア(株)
活動地 南陽市上野

協定期間 令和8年3月31日まで

活動内容 森づくりを通じて地域の活性化を目指し、山形大学の学生とともに社員が植樹、下刈り及び歩道整備等を行う。

◆おーばん琴の森

企画企業 (株)おーばん

活動地 尾花沢市大字尾花沢

協定期間 令和8年3月31日まで

活動内容 森づくり活動を通して、

社員、お客様及び地域住民との交流を図り、また企業としての社会貢献のため、植栽や自然に親しむ活動等を行う。

◆朝日相扶 絆の森 白鷹

企画企業 (株)朝日相扶製作所

活動地 白鷹町大字十王

協定期間 令和8年3月31日まで

活動内容 木製家具製造に携わる社員が森や木に対する慈しみを育み、森の成り立ちについて学び、地域の環境保全に貢献することを目的に、ブナ林の下刈り等の保育活動に取り組む。

◆みはらしの丘^{おかざき}末来の森

企画企業 岡崎医療(株)

活動地 山形市大字松原

協定期間 令和8年3月31日まで

活動内容 森づくりを通して地域の発展と環境保全に取り組み、地域の人々と交流し、地域の自然、魅力を再認識するため、植栽した広葉樹の下刈り等を行う。

◆もくロックの森

企画企業 (株)ニューテックシンセイ

活動地 南陽市赤湯十分一山 他

協定期間 令和8年3月31日まで

活動内容 南陽市赤湯十分一山の景観の保全と「もくロック」を育む広葉樹の森へ再生するため、社員と地域が連携し、下刈り等の森づくり活動を実施する。

◆ニッサンの森【朝日白倉】

企画企業 山形日産自動車(株)

活動地 日産プリンス山形販売(株)

活動地 朝日町大字白倉 他

協定期間 令和7年3月31日まで

活動内容 森づくり活動により森林の公益機能の維持、増進に貢献するため、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構に資金提供し、間伐等の森林整備を進める。

◆おわりに

令和3年度4月から、県内各地の35企業・団体が絆の森協定を締結することになり、33地区で森づくり活動がスタートします。

また県では、森林の持つ公益的機能を十分に発揮させるため、引き続き企業等の森づくり活動をサポートしてまいりますので、御協力よろしくお願ひします。

〔県みどり自然課〕

街から里山・森林まで、県内の森づくりを一体的に推進します
林業従事者からボランティアまで、森づくりの担い手を育成・支援します
【やまがた森林ノミクスの加速化を推進する】

公益財団法人 **やまがた森林と緑の推進機構**

令和3年度
新たな公益財団法人としてスタートしました

理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL 023-688-6633(代) FAX 023-688-6634
総務部・緑化推進部 TEL 023-688-6633 林業部 TEL 023-666-6348

【はじめに】

森林研究研修センターでは、「やまがた森林ノミクス」を推進するため、各種研修を実施しています。令和3年度の研修計画について紹介します。

【主要研修の概要】

令和3年度は、これまで実施してきた研修に加え、ICT等を活用した先端技術の活用や広葉樹資源の有効活用に重点を置くほか、森林経営管理制度の推進に向けて市町村林務担当職員を対象とした研修を数多く実施します。主な研修の概要は下表のとおりです。

それぞれの研修の日程等が決まり次第対象の方々にお知らせします。多くの方々の御参加をお待ちしています。

〔森林研究研修センター〕



令和2年度路網作設
高度技能者育成研修
(スマホアプリを用いた現地調査)

【令和3年度の主な研修の概要】

研修名	開催月 (予定)	場 所	対象者	内 容
路網作設高度技能者育成研修	5月 (4日間)	試験実習林 (西川町)	森林作業道作設 オペレーター (中級者)	・ ICT等先端技術を活用して路網を作設できる高度技能者の育成
森林作業道作設技術者養成研修	6月 (4日間)	試験実習林 (西川町)	森林作業道作設 オペレーター (初級者)	・ 簡易で丈夫な森林作業道を作設できる技術者の養成
青年林業士スキルアップ研修	7月	研修館 (寒河江市)	青年林業士	・ ICT等先端技術を活用したスマート林業 ・ 農林大学校学生との意見交換
林業技術者技術向上研修	8月 9月 10月 11月	研修館 (寒河江市) 現地	森林施業プランナー 林業事業体職員 林業事業体女性職員等	・ 低コスト施業技術 ・ 森林・林業現場における女性の活躍 ・ 広葉樹活用策 ・ ICT等先端技術を活用した森林管理
指導林家・林業士等研修	9月 (2日間)	最上管内	指導林家 指導林業士 青年林業士 林業グループ	・ 最上地域の林業と主要施策 ・ 現地研修
林業士養成研修	1月 (2日間)	研修館 (寒河江市)	青年林業士候補者	・ 山形県林業士(青年)認定を受けるための養成研修
	2月 (2日間)	研修館 (寒河江市)	指導林業士候補者	・ 山形県林業士(指導)認定を受けるための養成研修
森林技術職員等基礎研修 (チェーンソー)	5月 (3日間)	研修館 (寒河江市) 試験実習林 (西川町)	市町村職員 県職員	・ チェーンソーによる伐木等の業務に係る特別教育
森林技術職員等基礎研修 (刈払機)	6月 (1日間)	研修館 (寒河江市)	市町村職員 県職員	・ 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育
森林技術職員等基礎研修 (新任者)	7月～12月 (のべ5日間)	研修館 (寒河江市)	市町村職員 県職員	・ 森林行政の推進に必要な基礎的な知識 (初日必須+選択制)
森林技術職員等技術研修	4月～10月 (のべ6日間)	研修館 (寒河江市) 現地	市町村職員 県職員	・ 特用林産・造林・森林保護・林業機械・女性職員・林業経営



みどりのページ

「緑のふるさと
づくりセミナー」を
オンラインで開催

◆はじめに

市民活動による緑化の推進や森林環境の保全について普及啓発するとともに、関連する助成事業について周知を図るため、「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症予防のため、当初の予定を変更して無観客開催とし、ユーチューブでのライブ配信としました。

1 期日

令和3年2月19日(金)

2 場所

山形県生涯学習センター 遊学館

3 主催

(公財)山形県みどり推進機構

4 後援

山形県、山形新聞・山形放送、(公財)山形県林業公社、(一社)日本樹木医学会、山形県支部、(一社)やまがた樹木医学会、やまがた公益の森づくり支援センター、山形県森林インストラクター会、美しい山形・最上川フォーラム
5 申込者数
110名

6 内容

第一部 講演

演題 里山ソムリエな日々

～やまがたの森の幸せな暮らし方～

暮らし方

講師 里山ソムリエ 黒田三佳氏

第2部 緑のふるさとづくり

事例紹介

第3部 助成事業ガイド

◆黒田三佳氏の講演

人材育成アカデミーローブレーションの代表も務め、米沢市郊外の里山を拠点に、里山からの人づくりと「ことづくり」を実践、発信されている、黒田さんからご講演をいただきました。

東京都出身で、山形県には縁もゆかりもなかったという黒田さんですが、旅行で訪れた際に里山の魅力に惹かれ、ここで子どもを育てたいと強く思われたそうです。その後、デンマークでの生活を経て、ご家族で移住し、自宅の裏に森のある里山暮らしをスタートされました。

講演の中では、憧れの里山での子育ての様子、デンマークの森と日本の森との違い、学生たちとの交流、森のようちえんでの子どもたちとの触れ合いなど、美しい里山の森を舞台にした様々なエピソードを写真とともに紹介していただきました。

ほとんど何も知らないところから活動をスタートされたということで、近所のおじいちゃん、おばあちゃんたちをはじめ、植物やきのこ、イラスト、料理など多様な分野の専門の方から、多くの手助けをいただいているそうです。そうした方々へのリスペクトをととても大切にしていられ、しやるのが印象的でした。



◆緑のふるさとづくり事例紹介

助成事業を活用した2つの取組みについて紹介しました。

「緑化推進事業」からは、飯森区会(高島町)の取組みについて、事務局長の遠藤正真氏より発表していただきました。本事業は、緑化ボランティア活動を支援するもので、同

会では、地区内の憩いの場「天神山・お不動山」に桜を植樹して整備する活動を実施しました。老若男女を問わず、特に子どもたちからの参加もえており、次代へつなぐ地域づくりの実践例として期待されます。

「郷土の名木・古木等保全事業」からは、上山市指定天然記念物「大山沢の大フジ」について、担当樹木医の丸山久氏より発表していただきました。本事業は、天然記念物樹木の保全を支援するもので、県内の樹木医に診断・指導を依頼して実施しています。このフジは、腐材を含む盛土がされた劣悪な環境で生育し、樹勢が低下していました。また、一部の枝が垂下がり、巻きついている木の枝が折損するおそれもあったため、表土整備と発根促進を図る土壌改良、剪定および支柱設置等の処置が施されました。

◆おわりに

コロナ禍の続く中での開催となりましたが、講演の中でも、森のある暮らしは新しい幸せの形の一つではないか、山形に暮らす皆さんがSDGs時代のフロントランナーである、とのことがありました。引き続き、森や緑にかかわる様々な活動への支援や普及啓発に取組んでいきます。



みどりのページ

いいで緑の少年団は、添川小学校の3〜6年生が所属する学校単位団です。学校林での森づくり活動（令和2年度はクマ出没のため校庭で活動）や、収穫したどんぐりから実生を育て植える活動、地域の方々と行う栽培活動、学校



代表児童へ表彰状を授与

山形県緑の少年団活動発表大会 いいで緑の少年団が最優秀賞！

山形県緑の少年団連盟が主催する第32回山形県緑の少年団活動発表大会で、置賜ブロック代表のいいで緑の少年団（飯豊町）が最優秀賞を受賞しました。従来の口頭発表は行わず、審査委員会による書類選考で決定しました。3月10日（水）に飯豊町立添川小学校の全校集会において表彰を行いました。

花壇での奉仕活動などを行っていません。杉苗を木のポットで育てる「おきたまの森ホームキャンプ」にも参加し、「ロイロノート」というアプリで成長の様子を記録するなど先進的な取り組みも実践しています。表彰式に併せて、卒業する6年生から、新年度入団する2年生へ、杉苗の引継ぎも行われました。

なお、優秀賞は、蔵王第三小学校緑の少年団（山形市）、酒田緑の少年団（酒田市）、北辰小学校みどりの少年団（新庄市）が受賞しました。最優秀賞を受賞したいいで緑の少年団は、10月に北海道で開催される全国緑の少年団活動発表大会（全国育樹祭併催行事）に推薦される予定です。

「緑の募金」春の募金期間が始まりました

県内では、4月1日〜5月31日を春の募金期間として、緑の募金の呼びかけを行っています。特に、4月15日〜5月14日は、全国一斉強調月間「みどりの月間」となっています。県民の皆様からいただいた募金は、身近な環境の緑化、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境学習など、さまざまな緑化活動に活用させてい

ただきます。いまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ですが、無理のない範囲でご協力いただければ幸いです。

県民の森・源流の森が まもなくオープンします！

「県民の森」と「源流の森」では、12月からの冬期閉館が終わり、4月29日に開館します。オープンを記念したイベントをそれぞれ開催しますので、皆様ぜひお越しください。

◆県民の森オープンイベント

- 1 日時
令和3年4月29日（木・祝）
午前10時〜午後2時30分
- 2 主な内容
・40周年記念 太極拳体験
・探検ウォークラリー など
- 3 問合せ先
県民の森森林学習展示館
0231-66612116

◆源流の森オープニングイベント

- 1 日時
令和3年5月9日（日）
午前10時〜午後3時
- 2 主な内容
・木のぼりツリーイング体験
・はたらく林業機械体験 など
- 3 問合せ先

「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま

(R3. 2. 1〜R3. 3. 31)

(山形県みどり推進機構取扱分)

青山建設グループ緑の募金の輪を広げる会、(株)ウンノハウス、M木工、小国町森林組合、金山町森林組合、(株)環境管理センター、北庄内森林組合、(株)北山建設、(特非)グリーンセンター、(株)蔵王ミート、佐藤建設工業(株)、渋谷建設(株)、(株)ジャワ商会、(有)高万商店、手打ちそば港屋、(株)永田プロダクツ、西村山地方森林組合、ミドリオートレザ(株)、百目鬼温泉、(株)八鍬土建、山形県森林組合(連)、山形商工会議所、米沢地方森林組合（敬称略、五十音順）

ご協力ありがとうございました

源流の森センター
023817712077
※いずれのイベントも、新型コロナウイルス感染症予防のため、一部のプログラムについては事前予約制とする予定です。また、状況によっては、中止または内容を変更する場合があります。詳しくはお問合せください。
〔公財〕やまがた森林と緑の推進機構

「やまがた森林ノミクス」加速化の推進役

公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構 設立と役割について

一 はじめに

令和3年4月1日をもって公益財団法人山形県林業公社と公益財団法人山形県みどり推進機構は合併し、新たに公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構としてスタートを切りました。合併に当たっては、山形県をはじめ関係団体、新旧役員・評議員並びに契約者、債権者の皆様から多大なご理解とご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。この機会をお借りして新たな法人の機能と役割についてご紹介いたします。

二 合併の背景

山形県林業公社は昭和42年の設立以来、約1万6千haの森林を造成し、適切な整備により県民の生活環境の保全や地域林業の発展に貢献してきました。一方、山形県みどり推進機構は緑の募金をはじめ、地域の緑化や県民総参加の森づくりを推進してきました。

近年、大型集成材工場や木質バイオマス発電などの需要を受け、県内の木材生産は拡大しました。一方で、手入れされない森林が増加し、地域

の森林を一体的に管理していくことが求められています。また、林業を支える担い手や森づくりに参加する人材も体系的に育成していく必要があります。そこで、森林・林業に関する主要な施策を総合的にサポートし「やまがた森林ノミクス」を加速化する推進役として両法人の合併が進められました。

三 新たな法人の機能

新たな法人は、両法人の専門的な技術やネットワークを活かし、市町村や企業、林業従事者や県民からの様々なニーズに対応します。

まず森づくりでは、市街地の緑化や里山などの身近な環境整備から、木材生産林の整備までを一体的に推進します。これにより、地域全体で切れ目のない森づくりを推進するとともに、都市部でも森づくりや木材利用の重要性を普及します。このため、従来の支援策に加え公益の森づくり支援センターの事業などを組合せ、総合的で効果的な事業の実施を目指します。

また、新たに県からの委託により、

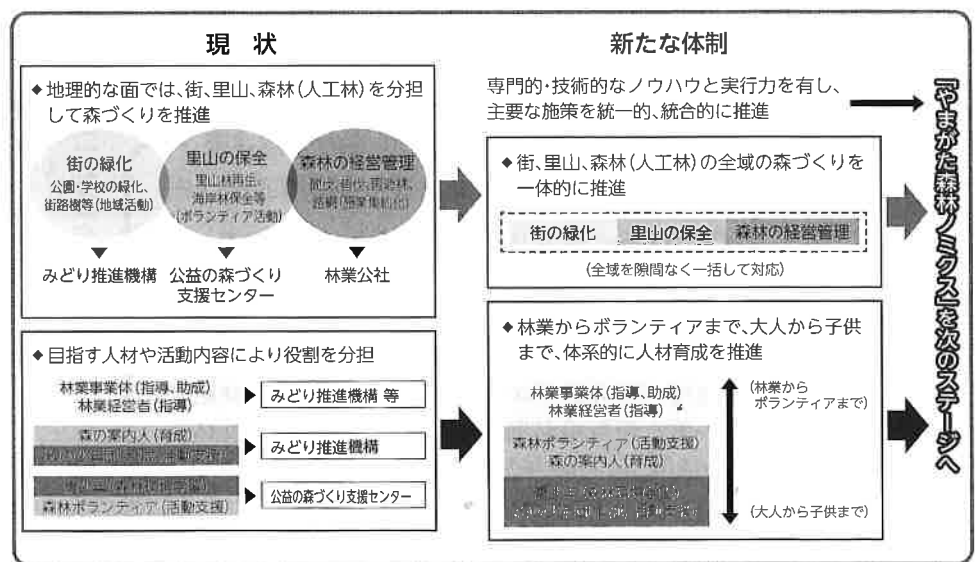
森林経営管理制度の円滑な運営を図るため、市町村からの相談対応や技術支援を行う「森林経営支援室」を設置し、森林環境譲与税を活用した都市との交流促進にも取り組めます。

人材の育成では、これまで年齢や活動内容毎に相談窓口が異なりましたが、新たな法人は総合窓口としてワンストップサービスを図るとともに、多様な支援策を併せ持つことで総合的で体系的な支援ができるようになりました。

具体的には、緑の少年団の活動や青少年の森林環境学習・木育などを総合的に支援します。また、地域住民やボランティアによる活動の支援や研修などを通じて森の案内人など指導者の育成にも努めます。さらに、林業への就業を目指す若者の就業相談・情報提供や研修を通して担い手を育成するとともに、高性能林業機械の導入支援や経営支援など林業事業体の活性化に取り組めます。

四 今後の活動

新たな法人は、市町村や企業、地



「やまがた森林ノミクス」加速化の推進役

域住民などこれまで以上に幅広い連携の下、様々な事業を展開してまいりますのでご理解・ご協力をお願いします。
〔公益〕やまがた森林と緑の推進機構

森の人紹介

事業を支える年の差コンビ

小松 孝さん
高橋 築さん



今回ご紹介するのは(有)遠田林産のプランナーコンビ、小松さん(写真左)と高橋さん

(写真右)です。

お二人は現在、現地調査や測量等の現場管理、森林所有者との交渉や立会い、役所関係の手続き、森林経営計画の作成等、森林施業そのものではなく条件整備や書類作成といった支援的な業務を担当しています。

小松さんは地元森林組合を定年退職後、同業の遠田林産に再就職しました。高橋さんは4年ほど東京のIT企業に勤めた後に地元庄内へUターン、たまたま社内のIT化を推進しようとしていた同社に経歴を買われて入社したそうです。

親子ほど年が離れている上、林業のベテランと全くの素人という、小松さんと高橋さんのコンビですが、IT関係で小松さんが教わる側になる事も多く、定年を迎える歳になっても新しい技術を身に着けることが出来る事に深く感謝していると話してくれました。

高橋さんの方も身に着けたプログラミングの知識や考え方が今の仕事を進める上で大いに役立っていると語る一方、地縁等のアナログなコミュニケーションや熟練層の技術を併用する事の必要性も感じており、そうした部分で小松さんを頼りにしている様子でした。

また、事業説明の説得力を増すために簿記やドローン等の技能を身に付けていきたいという積極的な高橋さんと、控えめな小松さんという具合に性格面でも良い組み合わせになっていると思います。

趣味を聞くと小松さんは音楽鑑賞、高橋さんはカラオケで、こちらでも人柄が出ているようです。

お二人がこれからもお互いの持ち味を生かし、響き合って地域林業の発展に寄与してくださる事を願っています。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

山の仕事に魅せられて

中條 雅 浩さん



令和2年度山形県木炭品評会で最高賞の県知事賞を受賞した中條雅浩さんを紹介します。

中條さんは、東京都墨田区出身、生粋の江戸っ子で、いつもテキパキと仕事をしています。

そんな中條さんは、米沢地方森林組合の作業班員として、主に下刈りや間伐などの保育事業や森林病害虫被害木の処理などに携わっています。

林業に携わるきっかけは、前職を退職したのち、組合の作業班であった片倉和也さんに誘われたのがきっかけだそう。林業に従事してからはまだ10年程度しか経っていませんが、現在は、作業班長として組合員の中心として活躍しています。

米沢地方森林組合では作業班員の

冬仕事の確保と広葉樹利用の促進から平成22年に黒炭の生産を開始しました。最初は南陽市にある窯で生産しておりましたが、米沢市にも窯を作り、現在では年間38トンの黒炭を生産しています。

中條さんは、米沢市の炭窯を作るきっかけからこの取組みに携わっていますが、実は炭を焼き始めてから3年の経験しかないとのこと。

しかし、昔から炭を焼いていた米沢市綱木の高橋国彦さんと一緒に作業をしたり、岩手県の炭焼き職人である千田さんから指導を受けるなどしたこと、技術が磨かれていったそうです。

炭焼きで気を付けているところを尋ねたところ、「色々と調べたり、聞いたりしたが、地元の土、気候にあった作り方、地元の方が昔から作っていたやり方が良いと思う。しかし、固定観念を持たず色々試してみたい」とのことでした。

今後はもっと炭と向き合っていきたい、今度は県外の品評会にも出品していきたいと抱負を語っていました。

いつも研修会などで講師をしていただく中條さんが、栄えある知事賞を受賞したことは、大変喜ばしい限りです。受賞おめでとうございます。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

「林業を受け継ぐ若者の育成を担って」



◇新型コロナウイルスが一向に収まらない状況の中、春の女神はいつものとおり心地よい日差しを届けてくれています。今回は、2年生に進級した5期生の学習の様子をお伝えするとともに、これまでの5年間の学科教育を振り返りたいと思います。

○懸命に取り組んだ1年間

令和2年度は新型コロナウイルスに翻弄された1年間でしたが、5期生14人は、日々積極的に講義、実習に取り組み、順調に森林・林業の知識や技術を習得しています。



冬期伐採実習(最上町)

さまざまな制約から高性能林業機械など外部講師による一部の実習は例年に比べ多少遅れが生じたものの、伐採基礎実習や間伐実習を強化し、伐倒技術の向上に努めました。また、

高性能林業機械等の資格についても、予定どおり全員取得しました。

○卒業論文への取り組み

卒業論文は、各学生が課題を設定し、学校で学んだ知識や技術を駆使して取り組む2年間の集大成です。

ここで、今年度の課題の一部を紹介します。まず、造林分野では、「チマキザサが優占する才治沼実習

林広葉樹二次林における人為的補助作業による更新技術」、「航空レーザー計測データを活用した造林適地の判定とゾーニング」また、森林保護分野では、「冠雪害の発生状況の把握と被害低減に向けた検討」、木材利用分野では「早生樹オノエヤナギの木質バイオマス利用の検討」、「原木市場における山形県産材の材質等調査」、そのほか「ドローンによる森林情報の森林管理への応用」、「女性林業者が考える林業用品の改善点の調査と提案」など、テーマはさまざま

です。今後、計画に基づいて調査分析、とりまとめを行っていきますが、ここで得た課題解決能力や論理的思考力は、卒業後の社会人生活の



冠雪害調査(大蔵村)

中で大きな力になるものと思います。

○就職活動も本格化

就職は、学生にとって最も大きな到達目標です。1月に山形国際交流プラザで開催された「森林の仕事ガイドンスinやまがた」では、学生が各ブースを回り、森林組合をはじめとする林業事業体や木材関連企業の担当者から就職に関するさまざまな説明を受けました。5期生の就職希望先は、森林組合や民間林業事業体、木材・製材、測量関係企業などが、事業体等からの求人票の提出、採用試験と、これから本格的な就職活動に入ります。

○5年間の学科教育を振り返って

学科設立から5年が経過し、これまで1期生から4期生まで44人が卒業し、現在、林業や木材産業の担い手として活躍しています。林業経営学科では、講義で得た知識を現場での実践に活用できるよう講義と実習のバランスを大切にしてきました。また、資源の効率的な循環利用を担

う後継者を育成するため、「育てる林業・使う林業1150・50」のスタンスで学科教育に取り組んできました。チェーンソー伐採など、従来からの基本的な技術として今後も不可欠な分野がある一方、林業分野でもレーザー計測や森林クラウドなどのIT技術が導入され、森林資源の育成・管理に活用されています。林業経営学科では、今後とも、基本技術の習得はもとより、最新の技術にも対応できるように、林業を取り巻く情勢に応じた学科教育を推進し、森林の育成から資源利用まで、学生の体系的な知識と技術の習得を目指します。



林業機械実習:ハーベスタ(金山町)

◇学科設立から6年目を迎える中、将来の林業を受け継ぐ若き人材の育成を担う本校の責務を改めて認識し、引き続き学科教育を進めていきます。今後とも皆様からの御支援をお願いいたします。(山形県立農林大学校)

「村山総合支庁の事務室木質化の取組み」

「木のあるオフィス」の推進

◆はじめに

村山総合支庁森林整備課では、西山杉をはじめとした村山地域産木材の利用拡大を図り、地域活性化につながる「むらやま森林ノミクス」の取組みを行っています。その一環として、事務室に積極的に木製品を取り入れる「木のあるオフィス」を進めています。

◆「木のあるオフィス」コンセプト

- ① 木材は手触りが良く、温もりがあり、衝撃を吸収し怪我を防止します
- ② 木材の爽やかな香りは気分を落ち着かせます
- ③ 木材の利用は荒廃した森林の整備につながります
- ④ 木材の利用は炭素を固定し地球温暖化防止に寄与します
- ⑤ 木材は軽く丈夫で加工がしやすく、工夫次第でいろいろなものが作れます

木の特徴を最大に生かしたこれら五つのコンセプトにより、書棚などオフィス家具をはじめ、調度品、文具等の木質化を推進しています。

◆廊下から卓上まで

森林整備課がある庁舎四階廊下の展示パネルや案内板、室内の仕切り板、共用の椅子テーブル、時計、課員の卓上など、大小様々な調度品や事務用品を木質化し、見て・触って自然に「木」を実感できるように工夫しています。

◆新型コロナウイルス感染対策

感染予防対策を徹底し、来訪者に安心して頂けるよう、入口に西山杉の足踏み式消毒スプレーを設置し、打合せテーブルには、飛沫防止の木製アクリルパーテーションを配置して安心感向上の環境づくりに力を入れています。

◆おわりに

この「木のあるオフィス」は管内の企業と連携して製品化し、官民一体となった取り組みを行っています。身近なオフィス用品の木質化を推進することによるPRも兼ねており、村山総合支庁の木質化をモデルに、今後は管内の官公庁や事業所への普及を目指しています。

〔村山総合支庁森林整備課〕



卓上オフィス文具

掲示板各種



木育時計



展示パネル



仕切り用パーテーション



足踏み式消毒スプレー



飛沫防止パーテーション



ゴミ箱ストッカー



MOKUKA



書類棚



打合せテーブルとイス

「きのこ王国もがみ」 フェアについて

◆はじめに

最上地域のきのこ生産量は、県全体の約7割を占め、県内はもとより全国でも有数の生産地になっていきます。しかし、産地間競争の激化などにより、近年は生産者数・生産量ともに減少傾向にあります。

そこで、最上総合支庁では産地活性化を図り、きのこの消費拡大を推進するため「きのこ王国もがみ」フェアとして積極的に普及啓発に取り組みました。

◆取組内容

①最上産のきのこ展示

毎年10月15日はきのこの日です。その日に合わせて、最上管内で生産されている主なきのこ6種をヤマザワ新庄店や鮭川村役場などの4か所で展示し、きのこに関する正しい情報を普及しました。

②きのこ需要に関するアンケート

10月15日から11月13日までの期間で、一般消費者のニーズを正確に把握するため、きのこ需要に関するアンケートを実施しました。

③きのこ学習会

10月20日鮭川小学校の3年生を対象としたきのこ学習会を実施しました。学習会では、きのこの生態や栽培方法などを紹介し、子供たちは熱心にメモを取っていました。座学後、完熟したいけ菌床を子供たちが12月まで栽培・観察しました。

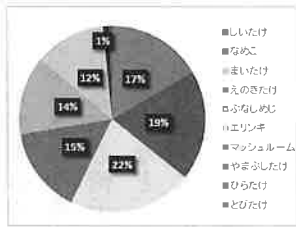
最上産のきのこ展示



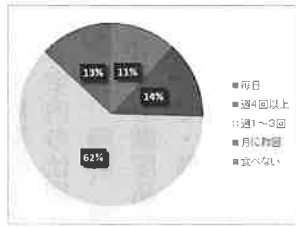
きのこ学習会



好きなきのこは
何ですか？



きのこをどの位
食べますか？



◆おわりに

今後も、引き続き一般消費者のニーズを把握しつつ、きのこの消費拡大に取り組んでまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

林道の維持管理軽減に向けて グランドセルによる 路盤補強の取り組み

◆維持管理を軽減するため

林道を走行するとカーブや縦断勾配が一般道路と比べて、急できついと感じられます。また、林道の多くの路線は砂利道のため、長年の利用や木材の搬出により、路盤砂利の流出や路床（路盤）などの轍掘れが発生し、通行の安全を妨げてしまう場合があります。

当管内の林道は、開設から数十年を経過した林道が多く、維持管理費の縮減に向けた取組みが課題となっています。

◆路盤の補強を図る

グランドセル（高密度ポリエチレン）路盤補強工法を施工しましたので紹介します。

急カーブ箇所（曲線半径20m）で、道路勾配が約11%の区間、80mに施工しました。路盤を掘り下げて不織布を敷き、その上に1セット約20㎡、厚さ10cmの網目形状のグランドセルを林道の全幅に置きます。連結には固定ピンを使用していきます。粒径40mmの砂利を網目の中に敷き詰めて

転圧します。さらに、砂利（5cm）を上置きとして敷きました。

施工での課題として、グランドセルをカーブに合わせるため、部材をカットする必要があります。また、部材は軽量のため運搬や取扱いは、容易ですが、固定ピンでの連結作業は、人力となります。



グランドセル敷設状況と施工説明図(カタログから)

◆今後の取り組みについて

通行する様々な車両が、安全に走行し、維持管理費を抑えることの出る林道。利用しやすく、管理しやすい林道の整備に向けて取組んでいきます。

〔最上総合支庁森林整備課〕

置賜森林ノミクス推進フォーラム2021の開催について

令和3年3月3日、シエルターな
んようホールにて「置賜森林ノミク
ス推進フォーラム」を開催しました。
このフォーラムは、『やまがた森林
ノミクス』の取組みを置賜から発信
するとともに、地域の林業・木材産
業の活性化を推進するため開催する
もので、今年度で4回目となり、約
70名の参加がありました。

今回は、地域の木材活用の未来と
可能性をテーマとして、高島町立図
書館や同町の屋内遊戯場「もつくる」
のデザイン・設計を手がけた、武蔵
野美術大学の若杉浩一教授からオン
ラインで講演していただきました。

講演では、木材の活用の仕方によつ
て地域がどう変わったか、今後、循
環型社会の中心は、農林業の生産拠
点である地方になるとしたうえで、
「新時代の価値の創造が地方中心に
始まっていく」と九州弁を交えなが
らお話しいただきました。

また、「もつくる」の木材調達を担
当した、パワープレイス(株)のウッド
デザイナー谷知大輔氏からもオンラ
インで参加いただき、「地域の木材を
使うためには、品質管理やコスト管

理など目に見える業務だけではなく、
地域の人たちのつながりやこころ・
誇りを大事にしなから、地元の技を
引き出していく、目に見えないこと
が大切」と説明していただきました。



地域の木材活用の未来と可能性に
ついて考えたフォーラム

フォーラムの中では、地域の環境
緑化などに顕著な功績があった方を
表彰する置賜地域緑化功労者表彰も
併せて行い、令和2年度の緑化功労
者として、鈴木文雄さん(飯豊町)
と手ノ子区協議会(同)に置賜産広
葉樹の木製表彰状を授与しました。

今後、置賜地域の林業振興に向
け、関係者と方向性や意識・情報を
共有する機会を設けながら、置賜で
の森林ノミクスを推進してまいりま
す。〔置賜総合支庁森林整備課〕

木炭普及への取組み(置賜地区)

令和3年2月10日、飯豊町中部地
区活性化センターで木炭品評会と木
炭講演会が開催されました。

◆第26回山形県木炭品評会

黒炭・白炭・その他の部門にそれ
ぞれ4、7、2作品、合計13作品が
置賜管内外から出品されました。7
名の審査員による厳正な審査の結果
は次のとおりです。

▽最優秀賞(山形県知事賞)

中條雅浩さん(米沢市)

▽優秀賞

高橋国彦さん(米沢市)

▽優秀賞

柳沢 悟さん(小国町)

▽優秀賞

米沢地方森林組合
(米沢市)

▽優秀賞

樋口勝典さん(飯豊町)

▽優秀賞

佐藤聖之さん(白鷹町)

今年度

は、ひと

つの窯か

らの同部

門の作品

は一つと

して扱う

ことにし

たことか

ら出品数



は減ったものの、記録がある平成15
年度(第10回)以来初めて「白炭」
ではなく「黒炭」が最優秀賞を受賞
する快挙がありました。この成果は、
昔から炭を焼いてきた地元経験者
からの教えを受け、地道に鍛錬を積
んできたことや、炭焼きに使用する
材について適切な含水率にして使用
するという基本的なことが実行でき
た結果だと分析しております。

◆令和2年度山形県木炭講演会

木炭の材料が十分に手に入らない
状況を鑑み『里山の広葉樹を上手に
使ってみよう』と題して、山形大学
名誉教授の野堀嘉裕先生から講演し
ていただきました。

講演では、年輪幅が炭の出来に影
響を及ぼすことを熟練の木炭生産者
と確認し合うなど、会場と一体感の
ある会になりました。

◆おわりに

これらの品評会や講演会を通して、
木炭の品質向上や供給拡大が図られ、
多くの方に山形県産木炭を使っても
らえるようになることを期待します。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

自伐林家による木質バイオマス活用の展開

◆はじめに

庄内地域では、温海町森林組合において平成23年度から軽トラ林業の取り組みを始めました。

軽トラ林業とは、小規模林家向けの林業で、チェンソーと軽トラックスさえあれば始められます。

同組合では、組合員が軽トラ林業で出材したスギを買取りしている他、「サラリーマン林太郎」という名称での、安全な伐倒作業、チェンソーの目立て、薪づくりなどの講習会も実施していました。

◆「自伐林家による木質バイオマス活用推進事業」での取り組み

庄内総合支庁では、自伐林家の取り組みを推進するため、平成30年度から3カ年の事業期間で、庄内北部地域をモデル地域とした自伐林家による木質バイオマス活用推進事業を実施しました。実施主体は北庄内森林組合です。

事業内容は、①自伐林家の組織化、②安定的な需給システム構築、③実証事業の実施（熱利用）、④木質バイオマスのエネルギー利用促進の4本立てとなっています。



軽トラ林業での出材状況

①自伐林家の組織化では、森林組合を中心とした自伐林家の組織化を図り、各種研修会、現地講習会を実施しました。

各種研修会 延べ35名参加
 現地講習会 延べ24名参加
 ②安定的な需給システム構築では、未利用材の収集システムを構築し、2.0m材は木質チップ製造工場へ、35cm（曲がり材）は実証試験の協力農家へ供給しました。

供給実績

2.0 m材 軽トラックス 264台分
 35 cm材 軽トラックス 268台分

③実証事業の実施（熱利用）では、

農業用ビニールハウスの暖房設備として、薪ストーブの利用を提案し、導入した農家の化石燃料削減効果などを検証しました。

農家数 延べ11名検証

薪ストーブ 延べ20台検証

④木質バイオマスのエネルギー利用促進では、未利用材の有効な活用方法を創出するための検討会や情報交換等のためのシンポジウムを実施しました。

事業検討会 （2回開催）

延べ50名参加

シンポジウム（3回開催）

延べ176名参加



農業用ビニールハウスでの薪ストーブ活用状況

◆各森林組合の取り組み

温海町森林組合では自伐林家を対象にキノコ栽培、広葉樹伐採など多様な内容の講習会を始めました。北庄内森林組合では県の事業終了後も取り組みを継続します。また出羽庄内森林組合でも令和3年度から新たに取り組みを始めます。

軽トラ林業から、自伐林家による木質バイオマスの活用が庄内全域に広がっています。

○温海町森林組合

開始時期…平成23年度

出材場所…組合

買取単価…末口径による

精算方法…その場で現金払い

○北庄内森林組合

開始時期…平成30年度

出材場所…土場

買取単価…軽トラ1台当たり

精算方法…現金又は口座振込

○出羽庄内森林組合

開始時期…令和3年度

出材場所…指定工場

買取単価…重量による

精算方法…口座振込

◆おわりに

自伐林家による木質バイオマスの活用が庄内全域で定着する事を期待します。「庄内総合支庁森林整備課」



やまがたの木造施設 94
 やまがたしあわせウッド賞顕彰施設
山形寿地所株式会社社屋
 山形市城西町4-4-11



完成年度：令和2年度
 構造 木造平屋建て
 設計 (有)中川建築設計事務所
 施工 (有)美・中川工務店
 特徴 勾配天井を活かした大空間が特徴の不動産会社社屋。
 梁の一部や内装（壁・床・天井）に県産木材を多く使用。
 壁や天井に使用している県産スギ材は無節の板を一枚ずつ選別しながら、張り上がった板にムラがないように施工している。

“美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします。

- 市町村の森林・林業行政の体制支援。
- 資源量調査。
- 森林 GIS 等、システム整備。
- 森林経営計画作成促進の支援。
- 路網整備の助言・指導。
- 関係団体とのマッチング。
- 森林境界の明確化。
- 森林情報の収集及び整備。
- 森林サイクルのマネジメント。

 一般社団法人 **山形森林調査協会**

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
 TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
 E-mail : yfi@kfa.biglobe.ne.jp

「伐木等の業務に係る特別教育の補講(追加講習)」を受講してください



労働安全衛生規則の一部を改正する省令及び安全衛生特別教育規程の一部を改正する告示がそれぞれ公布され、現在、チェーンソーを用いて伐木等作業を行っている者(特別教育修了者)は、伐木等の業務に係る特別教育の補講(学科と実技で2.5時間)を受講しないと、それ以降にチェーンソーを用いた伐木等作業に就けなくなります。

このため、当支部では令和3年6月11日(金)に山形県森林研究研修センターで補講を開催いたします。(今回が最後の開催となります。)

お問い合わせ

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部
 TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

人事異動

令和3年4月1日付けで次のとおり発令になりました。

【森林ノミクス推進課】

▽森林活用推進主幹 土屋隆一▽森林経営・再造林推進主幹 福井克▽森林保全主幹 横倉肇▽副主幹(兼) 課長補佐(林政企画担当) 佐藤典生▽課長補佐(森林利用・林工連携担当)(兼) 工業戦略技術課林工連携推進専門員 菊池仁志▽課長補佐(林産振興担当) 鈴木雄大▽課長補佐(森林経営管理担当) 森貴之▽課長補佐(森林整備・再造林推進担当) 志藤彰▽林政企画主査 鏡美幸▽主査(森林利用・林工連携担当) 荒澤佑樹▽主査(林産振興担当) 小野智史▽主査(森林経営管理担当) 石川直幸▽主査(森林保全担当) 岡草多▽主任主事(予算担当) 工藤裕子▽主事(林政企画担当) 澤菜瑠美▽主任技師(林産振興担当) 佐藤日和▽技師(林産振興担当) 大内辰章

【農政企画課】

▽専門職大学整備推進室室長補佐(林業学科担当) 坂本幸雄▽戦略推進主査 荒木龍平

【農林大学校】

▽教授(林業経営学科) 上野満▽主任指導員(林業経営学科) 吉崎明

【森林研究研修センター】

▽森林研究研修センター所長 堀米英明▽副所長(兼)総務課長 安部ひとみ▽林産・林業経営主幹(兼)森林経営指導部長 笠井俊哉▽総務専門員 有路博幸▽主任専門研究員(兼)主任専門研究員 宮下智弘▽研究員 横須賀龍彦

【村山総合支庁森林整備課】

▽森づくり推進室長 伊藤聡▽課長補佐(普及担当) 鈴木俊行▽林政主査 鈴木貴雄▽森林管理主査 奥山貴典▽森づくり推進室森づくり主査 石川貴則▽森づくり推進室造林主査 下山俊治▽主任主査(普及担当) 渡邊潔▽主任主査(治山林道担当) 保科忠雄▽主査(森づくり担当) 佐藤瑞穂▽主査(里山造林担当) 佐藤充▽主任林業普及指導員(普及担当) 野村真弓▽技師(治山林道担当) 阿部健太

【最上総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長(兼)林業・木材産業振興室長 梅津一寿▽森づくり推進室長 井上勝幸▽林業・木材産業振興室長補佐(普及担当) 齋藤孝浩▽森づくり推進室室長補佐 阿部正己▽林政主査 芳賀高之▽林業・木材産業振興室主任専門林業普及指導員 志斎和貴▽林業・木材産業振興室木材流通対策主査 榎田博郎▽林業・木材産業振興室専門林業普及指導員(普及担当) 高橋宏治▽主査(森づくり推進室) 横倉斉

【置賜総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 菅原隆志▽課長補佐(林政企画担当) 丹野真人▽課長補佐(普及担当) 櫻井忠孝▽森づくり推進室室長補佐(森づくり担当) 早乙女明▽治山林道主査 丹野雄一▽森づくり推進室造林主査 増本聡▽専門林業普及指導員(普及担当) 新野雄大▽林業普及指導員(普及担当) 中場菜央▽技師(治山林道担当) 山岸明寛

【庄内総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 伊藤信▽森づくり推進室長 小畑義一▽課長補佐(林政企画担当) 菅井泰之▽課長補佐(普及担当) 高橋晶▽課長補佐(治山林道担当) 増川栄一▽森づくり推進室室長補佐(里山造林担当) 樋口裕之▽林産振興主査 横山一徳▽主任専門林業普及指導員 浅野浩▽主査(林政企画担当) 本間光祐

▽専門林業普及指導員(普及担当) 佐藤聖子▽主任林業普及指導員(普及担当) 高野雄太▽主任主査(治山林道担当) 後藤徹▽主査(治山林道担当) 荘司和也▽主任技師(里山造林担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 片桐峻汰

【環境エネルギー部みどり自然課】

▽みどり県民活動推進主幹 小関秀章▽課長補佐(みどり県民活動推進担当) 山崎優▽みどり県民活動推進主査 大宮由起子▽主査(自然環境担当) 須藤泰典▽主査(みどり県民活動推進担当) 越智温子

●退職者

▽森林研究研修センター 所長 鈴木立男▽置賜総合支庁森林整備課 森林整備課長 渡邊潔▽最上総合支庁森林整備課 林業・木材産業振興室長 布施昭彦▽農林大学校 教授 吉崎明▽最上総合支庁森林整備課 森づくり推進室長補佐(里山造林担当) 福島弘幸▽庄内総合支庁森林整備課 課長補佐(治山林道担当) 高橋幸治